

# 質 一般

## 子ども・若者の育成支援

### すべての若者を自立へとつなぐ

#### 義務教育終了後のサポート体制等も検討

竹村 雅夫

(かわせみクラブ)

質問 平成二十二年四月に成立した子ども・若者育成支援推進法においては、育成支援策推進のための枠組み作りとしての「子ども・若者計画」の作成や、「子ども・若者支援地域協議会」の設置など、地方公共団体の責務を定めているが、本市ではどのような計画を進めていくのか。

答弁 本市では、二十三年度から青少年問題協議会において、新しい法律に基づき現行の「青少年育成の基本方針」を改定し、次世代育成支援行動計画の中に含まれている子ども・若者の育成支援に関する項目を取り込む「子ども・若者計画」について協議している。その計画期間は二十五、二十六年の二年間で、二十七年以降は、子育てから子ども・若者の育成支援までを一貫して行うことにより、すべての若者を自立へとつなぐための総合的な基本計画を策定したいと考えている。

また、現在、「子ども・若者計画」の協議において、若者生活を円滑に営む上で困難を有する子ども・若者に対する支援策のあり方についても検討しており、特に中学校卒業後のサポート体制が不足している現状を課題としてとらえ、義務教育終了後の若者を対象としたネットワーク機能を備えたサポート相談窓口の設置等についても検討している。

#### 保育所整備計画 今後の取り組みは

桜井 直人

(ふじさわ自民党)

質問 今年度の保育所整備計画については、待機児童の多



中小企業の活性化を目的として作成された「工場・研究所名鑑」

## 市内企業の交流を促進 中小企業活性化 名刺交換会の開催等に取り組む

柳沢 潤次

(日本共産党藤沢市議会議員)

質問 市内の中小企業が活性化することで、資金の循環等が促進され、地域経済の活性化につながると考えられるが、見解を聞きたい。

答弁 地域経済の活性化に

高くなり事業者の負担がふえたと考えるが、見解を聞きたい。

#### 危険なクランク道路 解消に向けた対応を

吉田 淳基

(自由松風会)

質問 市内には多数のクランク道路(線形に凹凸が生じてしまっている道路)が存在しているが、通行が不便であること、死角が存在することから、住民にとって危険な状態にある。景観



線形に凹凸が生じ、危険が指摘されているクランク道路

は、市内取引の拡大や市内消費の促進による地域経済の循環が必要であり、そのためには、市内経済を支える中小企業の活性化は必須であると考える。

#### 有機質資源再生 事業継続の判断は

原 輝雄

(さつき会)

質問 有機質資源再生センターについて、経営が困難となった場合には、市の直営も考えられるとのことだが、その場合の市の負担等の想定について聞きたい。

答弁 本施設を市が直営で運営する場合の経費については、原材料の搬入、堆肥の販売、施設の維持管理等の状況により変動するが、SPCの平成二十一年度決

## 資源品目別戸別収集 市民負担増の認識は

加藤 なを子

(日本共産党藤沢市議会議員)

質問 本年四月から市内全域での資源品目別戸別収集が始まったが、毎日のごみ出しを行う市民の負担感や資源収集量の増加について、市はどのような課題を認識

しているのか。

答弁 本事業の実施による市民負担の増加については、導入当初の四月は、出し方や分別がわかりにくいといった意見があったが、現在はラスト入りカレンダーの収集日程も理解され、排出日の混乱も少なくなっている。また、ビンや廃食用油の排出量が増加したことからも、資源の出しやすき環境が整ってきたものと考えている。

連の道路空間を確保できるものと考えている。

#### 商店街振興施策 今後の取り組みは

市川 和広

(自民クラブ藤沢)

質問 商店街を取り巻く環境は大変厳しくなっているが、振興施策にどのような取り組みを行っているのか。

答弁 商店街振興については、これまで活性化に向けた支援を中心にさまざまな施策を行ってきたが、今年度から新たな取り組みとして、商店街のにぎわいを創出するため、専門家とともに各商店街の特徴を生かした特色づくりを進めてもらうよう「商店街にぎわいまちづくり支援事業」を創設し、事業を進めている。現在、この新たな事業に対し、十四の商店街団体から応募があり、各商店街の特色づくりに取り組んでいる。

※二項道路…建築基準法第42条第2項に規定する道路。昭和25年当時から既に道として使用され、道に沿って建物が立ち並んでいた幅員1.8m以上4m未満の道路。